

参 考 手 本

三伏炎陽を啓（ひらく）

三  
伏  
啓  
炎  
陽

※これは規定課題ではありません。

成  
瀬  
映  
山  
先  
生

参 考 手 本

※これは規定課題ではありません。



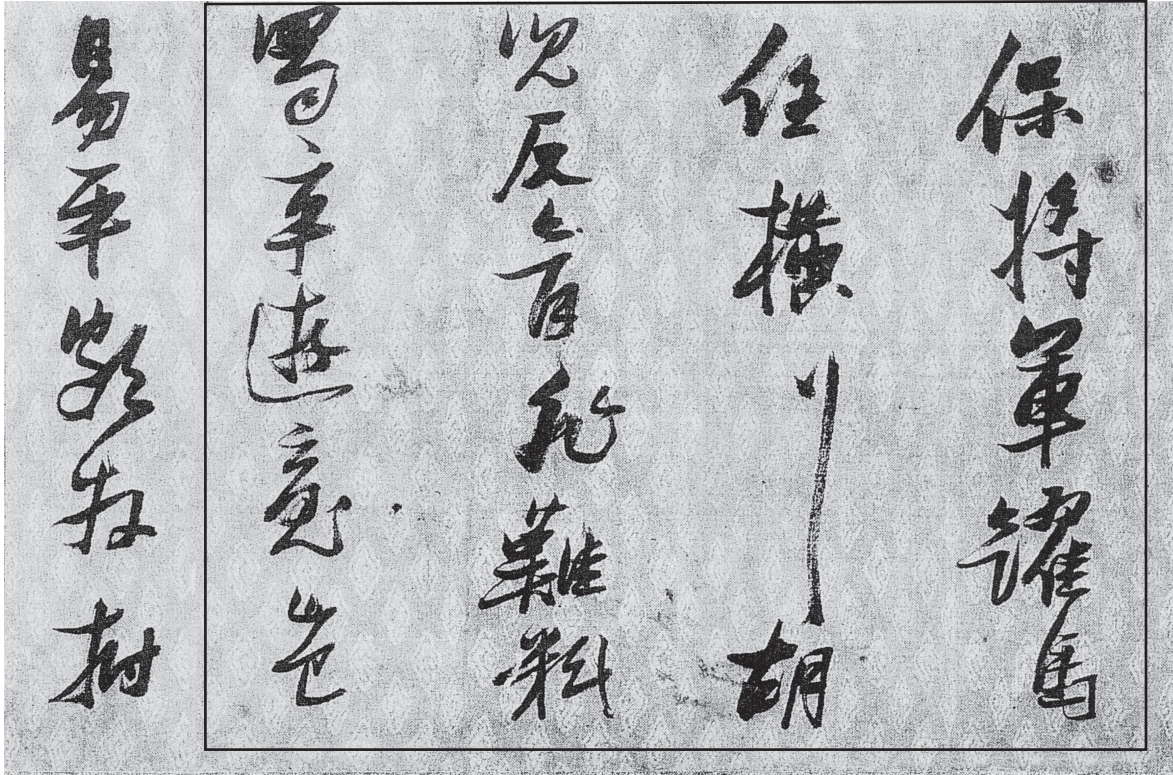
文章政理に通ず

高 木 聖 雨 先 生

# 条幅規定

A部 (準五段以上)

B部 (四段～準三段)



張瑞凶(明) 『感遼事作六首卷』②

保將軍躍馬

任横行胡

兒反骨非難料

蜀卒遊魂豈

(入りて) 保つに (堪え)

將軍 馬を躍らせて 横行に任す

胡兒の反骨 料り難きに非ざるも

蜀卒の遊魂 豈に

(兵士をもてなせば、) 守るに (充分、)

馬を躍らせる將軍は思いのままに往来する。

胡兒どもの反骨は予測しがたいものではないが、

蜀の兵卒のさまよう魂は

## 【今月の課題】

「保將軍躍馬任横行胡兒反骨非難料蜀卒遊魂豈」(20字)

〔この課題を同月の条幅随意には出品出来ません〕

条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く  
段・級を記入してください

(7月10日締切)

条幅規定

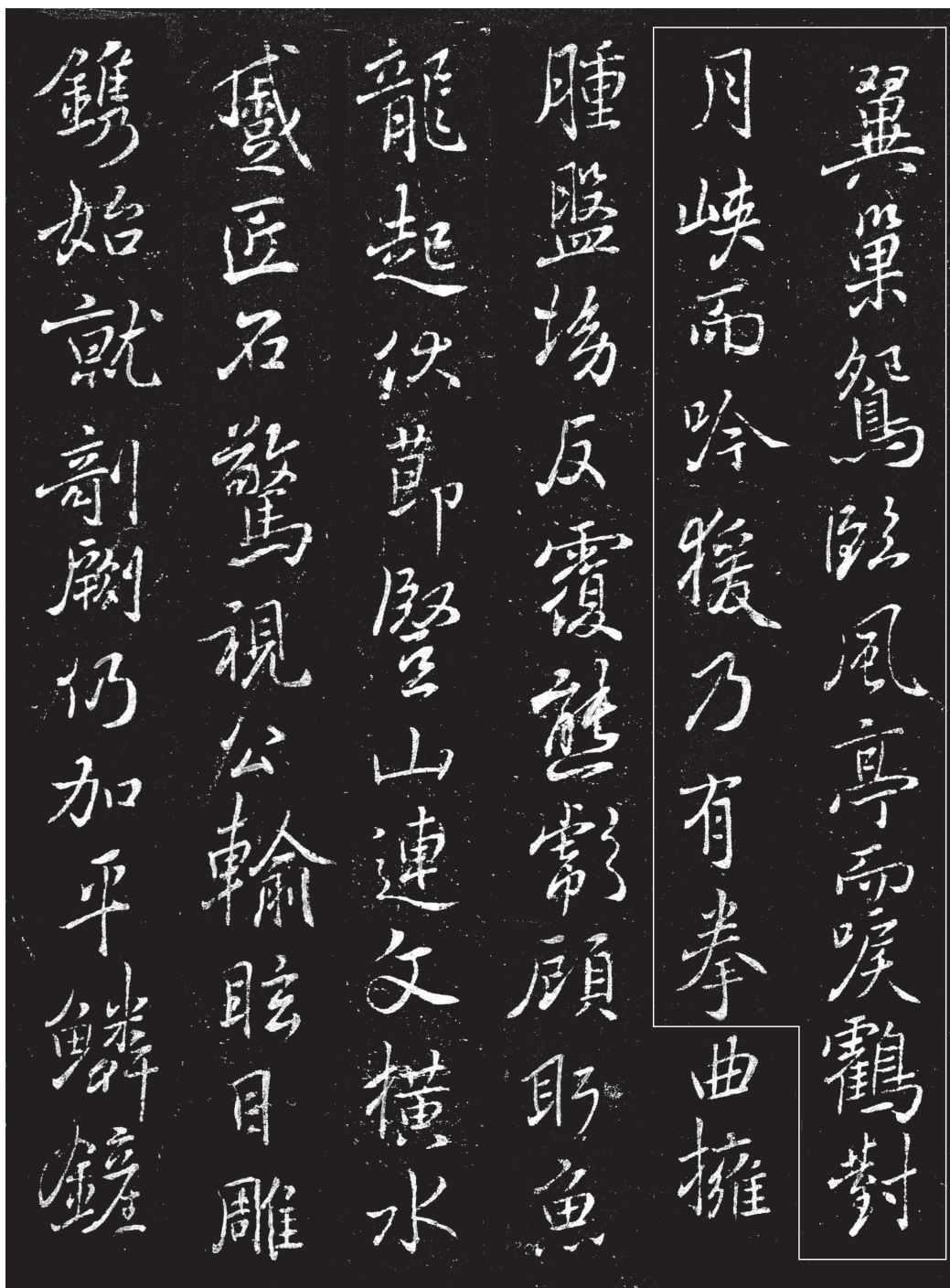
C部 (二段以下)

『枯樹賦』

楮遂良

(唐)

⑦



翼巢鴛鳥臨風亭而唳鶴對  
月峽而吟猿乃有拳曲擁

腫盤塲反覆熊彪顧取魚

龍起伏節豎山連文橫水

蹙匠石驚馬視公輸眩目雕

鏤始就剗刷仍加平鱗鏤

翼巢鴛。臨風亭而唳鶴。對

月峽而吟猿。乃有拳曲擁

腫。盤塲反覆。熊彪顧眄。魚

龍起伏。節豎山連。文橫水

蹙。匠石驚視。公輸眩目。雕

鏤始就。剗刷仍加。平鱗鏤

翼を(比べて)鴛を巢くわす。

風亭に臨みて鶴を唳かしめ、月

峽に対して猿を吟かしむ。乃

ち拳曲擁腫、盤塲反覆し、熊

彪の顧眄し、魚龍の起伏する

有り。節の豎なるは山連なり、

文の横なるは水蹙まれり。匠

石は驚き視、公輸は目を眩ます。

雕鏤始めて就り、剗刷仍りて

加え、鱗を平らげ甲を鏤り、

【今月の課題】「翼巢鴛臨風亭而唳鶴對月峽而吟猿乃有拳」(18字)

条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く段・級を記入して下さい

【この課題を同月の条幅随意には出品出来ません】

(7月10日締切)



半紙規定 (二)

※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書 〔二級以下〕楷書



九成宮醴泉銘 (唐・欧陽詢)

瑕穢可以導

か・あ・で・き・と・う  
瑕穢を滌蕩す以て正性を導養す可く

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

ぞん・ひ・を・き・め、  
不臣を芟り、

半紙規定 (一)

曹全碑 (漢・作者不詳)



殘圯芟不臣

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕  
(7月10日締切)

条幅参考手本

山中蘭葉徑城外李桃園豈  
和人事靜不覺鳥聲喧

義山書

下出義山先生

山中蘭葉徑 城外李桃園 豈和人事靜 不覺鳥聲喧

山中蘭葉の徑 城外李桃の園 豈に人事に和して静かなるべし 鳥聲の喧なるを覚えす

田辺紅園先生

八月湖水平 涵虛混太清  
蒸雲夢澤波撼岳陽城

八月湖水平 涵虛混太清 氣蒸雲夢澤 波撼岳陽城

八月湖水は平らかに 虚を涵して太清に混ず 気は蒸す雲夢の沢 波は撼がす岳陽城

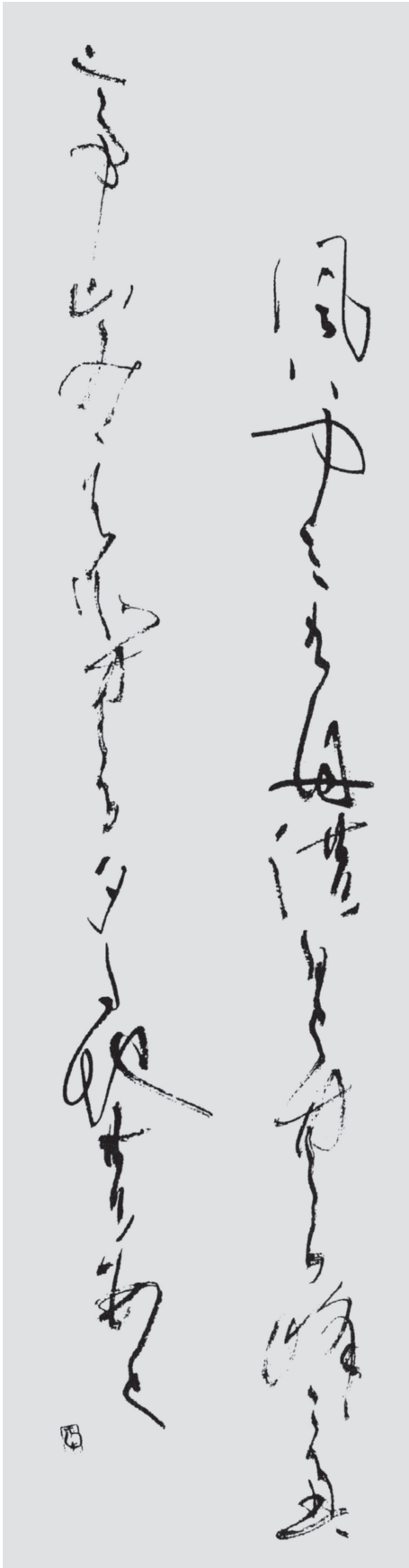
条幅参考手本



鰐  
渕  
碧  
桃  
先  
生

此地別燕丹 壯士髮衝冠 昔時人已沒 今日水猶寒  
この地燕丹に別る 壯士髮冠を衝く 昔時人已に没するも 今日水なお寒し

条幅かな



浮  
乗  
清  
郷  
先  
生

風<sup>かぜ</sup>はやみ雲<sup>くも</sup>のひとむら峰<sup>みね</sup>こえて山<sup>やま</sup>見えそむる夕立<sup>ゆふだち</sup>のあと (伏見院)  
八 三九母濃日 無 盈帝 所無 多地農

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。

(7月10日締切)

半紙かな（1級以下）

多  
万  
世  
本  
支  
春  
保  
ま  
ま  
こ  
だ  
ま  
し  
て  
山  
ほ  
と  
と  
ぎ  
す  
ほ  
し  
い  
ま  
ま  
(杉田久女)

支部名  
級  
姓  
号  
(鉛筆可)

※ちらし文字変換は自由

おのづから涼しくもあるか夏衣日もゆふぐれの雨のなごりに  
 於  
可  
す  
す  
九  
裳  
可  
な  
ご  
ろ  
も  
な  
ご  
り  
に  
の  
あ  
め  
農  
利  
二  
若  
月  
久  
美  
子  
先  
生

半紙かな（初段以上）

おのづから涼しくもあるか夏衣日もゆふぐれの雨のなごりに  
 於  
可  
す  
す  
九  
裳  
可  
な  
ご  
ろ  
も  
な  
ご  
り  
に  
の  
あ  
め  
農  
利  
二  
若  
月  
久  
美  
子  
先  
生

支部名  
段  
姓  
号  
(鉛筆可)

あ  
ら  
は  
な  
ら  
ず  
夏  
衣  
日  
も  
ゆ  
ふ  
ぐ  
れ  
の  
雨  
の  
な  
ご  
り  
に  
の  
あ  
め  
農  
利  
二  
若  
月  
久  
美  
子  
先  
生

浮  
乘  
清  
郷  
先  
生

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

(7月10日締切)



実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

君を送りて花近き高樓まで  
 去り見れば緑に迷ふ鶯は霞空  
 く鳴きかへり白き光は佐保姫  
 の春の車駕を照らすかな

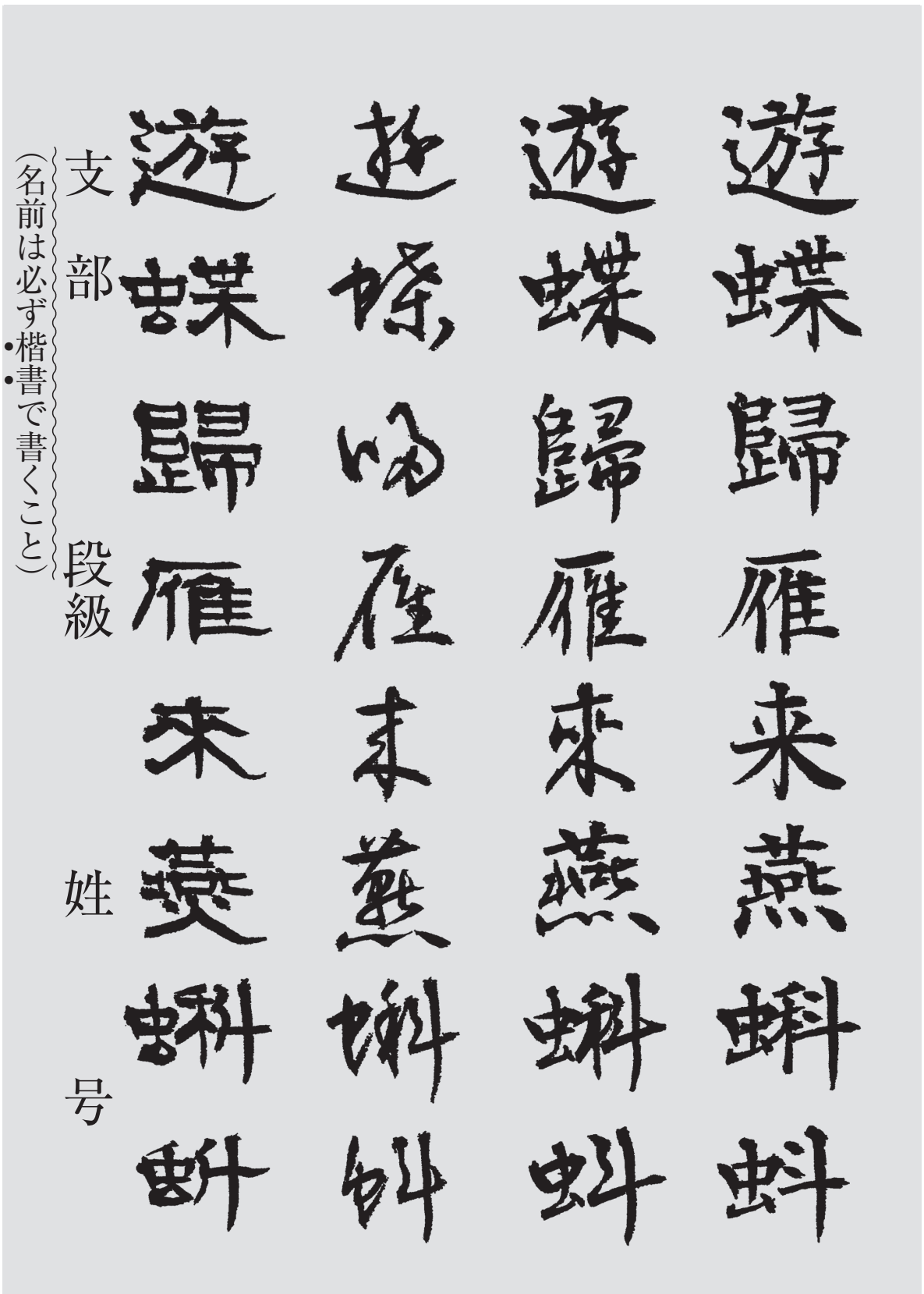
支部名 段 級 姓 号

渡 邊 南 嶂 先 生

島崎藤村詩「晩秋の別離」より

(7月10日締切)

細 字



支 部

段 級

姓

号

(名前は必ず楷書で書くこと)

※一級〜八級は草書まで。 初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

蛸か  
蚪と  
おたまじゃくし。

(7月10日締切)

硬筆（1級以下）

2行、楷書

鳳凰は古代中国で、麟・亀・竜と  
 ともに四瑞として尊ばれた。  
 支部名 級 姓 号

齊藤 翡翠流 先生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

花が散って若葉が萌え、山壁に青空  
 がつついている。身軽な装いに薰風が  
 心地よく吹きぬける。  
 支教名 画 姓号

…山野に…身軽…吹き…。

青柳 江雲 先生

※本院定型用紙・たて半分を書く

(7月10日締切)

中2用

支 部 名	大無限の
段 級	大無限の
名 前	大無限の

渡邊南嶂先生

中3用

支 部 名	雄大な
段 級	雄大な
名 前	雄大な

大越三宗先生

小6用

支 部 名	音詩
段 級	音詩
名 前	音詩と

渡邊南嶂先生

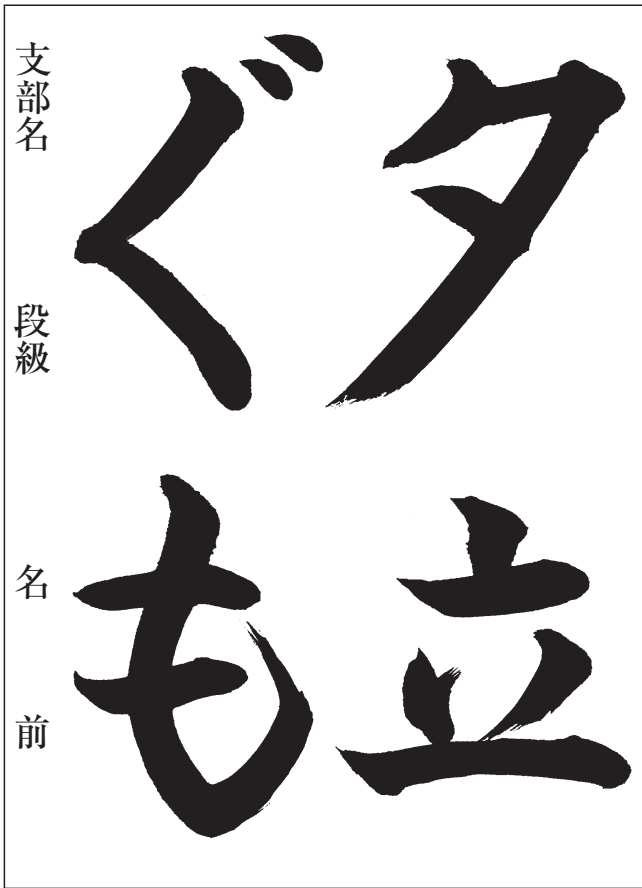
中1用

支 部 名	天気週末の
段 級	天気週末の
名 前	天気週末の

渡邊南嶂先生

(7月10日締切)

小4用



大越三宗先生

小5用



大越三宗先生

小2用



鈴木翡翠先生

小3用



鈴木翡翠先生

(7月10日締切)



中1

電車でんしゃの窓まどから、水みづ平へい線せんに美うつくしい夕ゆふ焼やけを見みた。

中1~中3

中2

努力どりょくなしに最大さいだいの効き果くわを生なみ出だすことことは無む理り。

青柳江

中3

白馬はくばの残のこ雪ゆきや雷らい鳥とりは、絵え葉は書かを思おもわせまます。

雲先生

小1・幼年用

支部名

段級

名

前

やま

鈴木 惠 先生

小1・幼年

あまあまののががわわ。ひひここぼぼし、おおりりひひめ、

小1~小3

小2

ででげげんん気きににああそそぼぼう。天てん気きののよよいい日ひは、そそと

鈴木 惠

小3

ををししてていいまます。朝あそそううおおききて、毎まい日にち体たいそそう

翠先生

小4

をを大だい切せつににすするるここととだだ。物ものをを生なかかすすここととは、物もの

小4~小6

小5

をを作つくるるここととでです。花はなのの大だいききなな役やく目めは、種たね

田辺 翠

小6

やや地ちかかくくのの変へん動どうががああるる。海かい底ていででは、火か山ざんのの活くわつ動どう

鶴先生

(7月10日締切)

小学部小筆課題

中学部かな課題

支部名 段級 名前前

天の川  
七夕祭り

支部名 段級 名前前

夏山也  
雲わりの石よりに  
はるる

船久保 棠苑 先生

主幹 菅野 翠 濤

※半紙半分を書いて下さい。(7月10日締切) ※半紙半分を書いて下さい。

8月10日締切課題予告

A B部条幅規定 易平頗牧拊髀憂不細虛名誤國是書生三韓烽火

C部条幅規定 曲擁腫盤拗反覆熊彪顧眄魚龍起伏節豎山

かな条幅規定 わが心いかにせよとてほととぎす雲間の月のかけに鳴くらむ(藤原俊成)

半紙規定(初段以上) 寧黔首繕官 半紙規定(二級以下) 養正性可以

半紙かな(初段以上) 庭の面は月もらぬまでなりにけりこず糸に夏のかげ茂りつつ(白河院の歌)

半紙かな(二級以下) 向日葵の空かがやけり波の群(水原秋桜子)

8月10日締切学生部課題予告

中三規定 眼下の雲海 中三硬筆 夏は湿度が高く、蒸し暑く、過ごしにくい。

中二規定 寄せる大波 中二硬筆 青い空に白い雲、夏は海の恋しい季節だ。

中一規定 谷川水の音 中一硬筆 軽い運動で汗をかくのが、最高の健康法だ。

小六規定 空の銀河 小六硬筆 夏休みに、両親といっしょに富士登山をする。

小五規定 広い世界 小五硬筆 さあ夏だ。暑さに負けず、海で泳ぎます。

小四規定 古い文字 小四硬筆 つゆが明け、太陽とともに夏がやってくる。

小三規定 ミルク色 小三硬筆 夏には、家ぞくでりょ行に出かけます。

小二規定 カメラ 小二硬筆 なつ休み中に、ありのかんさつをしたい。

小一規定 そら 小一・幼年硬筆 なつやすみ、えにつき、はなび、うみ。

中学部かな 岩の間に砂すこしありて清水わく

小学部小筆 海への風 ながれ星